

《想定される諸室》

- 調査研究機能 ⇒ 研究室や化石クリーニング室、X線機器室など
- 資料保管機能 ⇒ 収蔵庫や特別収蔵庫、標本管理室など
- 展示機能 ⇒ 常設展示室（650㎡）や企画展示室（500㎡）など
- 教育普及、学習支援機能 ⇒ 講堂や研修室など
- 情報提供機能 ⇒ 情報処理室や図書閲覧室など
- 利用サービス機能 ⇒ 授乳室やミュージアムショップなど
- 管理運営機能 ⇒ 事務室や警備室など

《常設展示のテーマ》

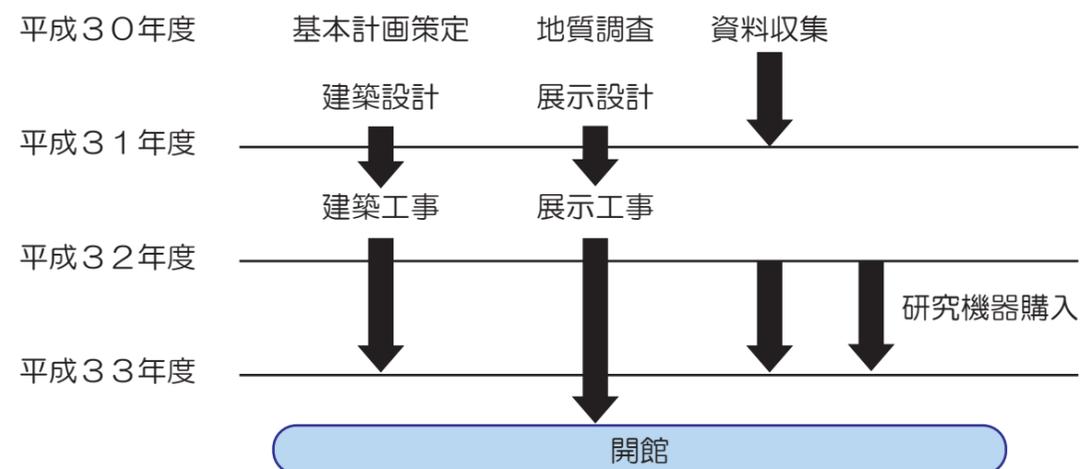
- 1 長崎の大地（プロローグ）：地球の成り立ちや長崎の岩石などを紹介
 - 2 生命の記録：生命史の大きな流れを紹介
 - 3 恐竜の時代（はるかな過去の長崎1）：長崎市の恐竜を中心に紹介
 - 4 燃える石の時代（はるかな過去の長崎2）：長崎市の石炭を中心に紹介
 - 5 現代の恐竜（エピローグ）：恐竜の子孫である鳥類を中心に紹介
- ※ 研究・保管設備はオープンラボとして、来館者が見学できるように整備する。
また、野外調査地を整備し、体験イベントなどを実施する。

第4章 恐竜博物館の管理運営

《管理運営》

専門性が高い調査研究や標本管理、展示などの業務を除き、管理運営業務については指定管理者制度を導入する。

第5章 恐竜博物館の開館までの準備



（仮称）長崎恐竜博物館

基本構想—概略版—



長崎市教育委員会

平成30年3月



第1章 背景と現状、課題

《背景》

- ・長崎市の大地は石炭採掘の歴史とともに調査されてきた。
- ・白亜紀後期（8100万年前）の三ツ瀬層から、ティラノサウルス科の大型種が国内で初めて発見されるなど、学術的な価値の高い多種多様な恐竜化石が発見されており、今後も発見される可能性が高い。

～長崎と恐竜のつながり～

日本の古生物学の父とされる横山又次郎東京帝国大学教授は、長崎出身であり、“恐竜”という訳語も横山先生による教科書が日本最古の記録とされている。

《現状と課題》

- ・長崎市には化石などの自然史資料を適切に管理し、調査を主導できる博物館が無い。
- ・長崎市の恐竜や化石について、市民が深く学べる博物館が無い。



第2章 恐竜博物館整備の基本的な考え方

《「はるかな過去の長崎」を探求する》

- ・あらゆるテーマを対象とした総合自然史博物館ではなく、国内で初めて発見されたティラノサウルス科大型種の化石など、他では見られない長崎市産の「恐竜」を中核テーマとし、石炭ができた時代を経て、現代に至るまでの長崎市特有のストーリーを活かした特色のある博物館を目指す。

《基本理念》

- ・長崎の資料を収集、保管し、国際的に通用する調査研究を実践する施設
- ・恐竜を核とした長崎の魅力について、子どもから大人まで楽しめる施設
- ・研究成果の情報を広く、分かりやすく提供し、さらなる魅力を高める施設
- ・知的関心や学校教育のニーズ、および地域を育む学習を支援する施設

《目指すべき博物館の姿》

- ・長崎の自然史研究と資料収集の拠点
- ・恐竜を通して長崎の歴史を展開し、魅力を知る展示
- ・利用者の知的関心を高める場や学校教育の学習の場
※発掘現場に近く、軍艦島を望む野母崎田の子地区に建設されることから、フィールドミュージアムとして、野外資源を有効活用する。
- ・国内外の研究機関との連携機能、学術交流機能
- ・魅力あるレクリエーションの場



第3章 恐竜博物館の機能と活動

《機能および活動の体系図》

